

1	(1)	a 感じ取った	b 考えた	c 伝える	d 使う	2 × 4 3 × 2	順番が違うものは点数半分 表したい・思い描くだけ1点	
	(2)	ア 強く表したい			イ 心の中に思い描く			
2	(1)	・表現の資質・能力を高めていくため、表現と鑑賞の学習の関連を図りながら指導すること。					5	両方できて5点 片方だけ2点
		・発想や構想の学習と鑑賞の学習との関連を図り、「思考力、判断力、表現力等」の育成につなげること。						
	(2)	・鑑賞した作品から感じ取ったことを思い起こし、発想の手掛かりにさせる。					5	
		・普段感じやすい感情や、夢、願い、平和といった概念などから〇〇に入る言葉を複数挙げ、それらの言葉のイメージに合った形などを考えさせるなど題材の目標に則した手立てが書かれていること。						
		・それぞれの生徒がどのような言葉をあてはめたのか共有することで、多様な視点から考えさせる。						
	(3)	(ア)	・表現ツールとして役立つ他、記録や意見の共有、資料の保管と利活用など活動を効率的に行うことができる。				5	
			・作品をICTで鑑賞する場合、手触りや質感、サイズ感など、感じ取れない部分がある。					
		(イ)	・鑑賞、記録、共有、資料の検索や保存、表現ツールとしての使用など、学習活動に有効な方法が具体的に記述されていれば正答とする。				5	
	3		① ○	② ○	③ ×	④ ○	2 × 5	
⑤ ○								
4		・生徒の思いを大切にし、自分なりの表現方法で作品がつかれるよう支援する。					5	
		・自分の創作活動に価値を見出せるよう、認め合える雰囲気づくりを心がける。						
5	(1)	越前焼						3
	(2)	a 成形	b 素焼き	c 施釉	d 本焼き	1 × 6		
		e 加飾	f 絵付け					
	(3)	ア f	イ b	ウ c	エ d	1 × 6		
		オ e	カ a					
	(4)	図1 ひもづくり			図2 板づくり			2 × 2
	(5)	粘土の接着剤の役割					3	
(6)	火炎型土器の造形的なよさや文化的価値について述べていること。					5		
6	(1)	A ルネ・マグリット			B デペイズマン			2 × 3
		C ジャクソン・ポロック						
	(2)	ア フロッタージュ	図 g	イ デカルコマニー	図 c	完答2 × 4		
		ウ コラージュ	図 e	エ ドリッピング	図 b			
	(3)	技法習得自体が目的ではなく、生徒が自分の表したいことを創意工夫して描いたりつくったり					5	
		するために効果的に生かしている題材であること。						

完答 2 × 4